

同窓会発足110周年 高校時代に思いをはせて

秋田高校同窓会は6月15日、秋田キヤッスルホテルで令和7年度通常総会を開催した。同窓会発足から110周年の節目となる今年の総会には、同窓生や教職員ら147人が集った。令和6年度の決算報告、常置委員会（企画・財政・名簿・広報・ホームページ）および郷土創生特別委員会の事業報告・決算に続き、令和7年度の事業計画・予算が原案通り承認された。

銭谷眞美会長は冒頭、「毎年、桜の季節を喜ぶ日本人の姿がドイツ人には不思議に映るらしい。私が何十年も前の高校時代を懐かしく思う気持ちにも似たところがある。こういう心情を抱くことができる日本人というのも悪くないと思う」と挨拶した。

4月に着任した庫山徹校長は、創立150周年記念事業で昨年からはじまった生徒向けの講演会や米国への短期研修事業などへの同窓会の支援に謝意を表明した。またコロナ禍以降、制約が多かった運動会や秋高祭などの学校行事がようやく従来の形を取り戻したことや運動部・文化部ともに県大会、全国大会で好

成績を収めている、と生徒たちの活躍を報告した。

事務局長は、同窓会が前年度、生徒の米国研修事業に140万円、北雄講演会に120万円を支出したと、遠方で行われた全国大会出場への追加支援として100万円を支出したことなどを説明。現役生徒への支援継続のために同窓会費の納入をお願いしたいと呼びかけた。

出席した同窓生からは、学年による会費の納入率のばらつきが大きく、若年層においては1桁の学年もあるとの指摘があった。また、大学教員の同窓生からは県内出身学生のITリテラシーに課題を感じるとして高校のデジタル教育強化を求める意見も出た。

総会後の記念講演では、東映アニメーション執行役員の鷲尾天氏（昭和59年卒）の講演が行われた。鷲尾氏は「プリキュア」シリーズや「おしりたんてい」など人気の子ども向けアニメを手掛けてきたプロデューサーで、プリキュアに込めた思いや韓国作家の絵本を映画化し、米アカデミー賞にノミネートされたことなどを語った。

続いて行われた懇親会では、幅広い年代が参加し、久々の再会を喜ぶ姿が会場各所でみられた。会が進むにつれ高らかな笑い声があふれ、最後は応援団OB紫紺の会のリードに合わせて校友会歌を斉唱、来年の再会を誓い盛会のうちに幕を閉じた。

一般会計報告（同窓会事務局）

『一般会計 決算・予算』概要説明

①令和6年度決算

収入 会費収入は前年度実績よりは31名上回ったが、予算比では229名の減。繰入金は150年史の頒布（残部あり）。

支出 だより116号を増ページ（全国大会等に出場した部活が多かったため）
会員情報管理システム整備は翌年度へ繰越し。コロナ禍で延期していた同期会の開催が多く、支援額が増加。

②令和7年度予算

規程を改定し入会金の額を1年相当分増額し、会費の免除期間を卒業後4年から5年にする。基金会計から400万円を繰り入れ、物価上昇分への対応、母校生徒支援の増額、築30年以上経過した同窓会館の設備整備に充当する。

令和6年度 一般会計 決算報告書

＜収入の部＞ (単位:千円)			
項目	予算額	決算額	増減
入会金	1,879	1,872	△7
会費	11,300	10,842	△458
協賛広告費	440	440	0
会議収入	1,300	1,181	△119
雑収入	111	295	184
繰入金	700	182	△518
繰越金	9,990	9,990	0
収入合計	25,720	24,802	△918

＜支出の部＞ (単位:千円)			
項目	予算額	決算額	増減
事業費	11,000	5,878	△5,122
会議費	2,900	2,507	△393
事務費	9,340	8,967	△373
基金	0	0	0
雑費	80	54	△26
予備費	2,400	0	△2,400
支出合計	25,720	17,406	△8,314

令和7年度 一般会計 予算書

＜収入の部＞ (単位:千円)			
項目	予算額	前年度予算額	増減
入会金	2,421	1,879	542
会費	11,000	11,300	△300
協賛広告費	440	440	0
会議収入	1,400	1,300	100
雑収入	343	111	232
繰入金	4,300	700	3,600
繰越金	7,396	9,990	△2,594
収入合計	27,300	25,720	1,580

＜支出の部＞ (単位:千円)			
項目	予算額	前年度予算額	増減
事業費	12,300	11,000	1,300
会議費	3,100	2,900	200
事務費	9,320	9,340	△20
基金	0	0	0
雑費	80	80	0
予備費	2,500	2,400	100
支出合計	27,300	25,720	1,580

天上天下 TENJO TENGE

クマの出没を心配する日々が続く中、英オックスフォード大学大学院で動物学、生態系を専攻する東京出身の女子学生がこの夏、来県した。父親の仕事の関係でスイスに生まれ、米英で通算14年間過ごし、米ハーバード大を昨年卒業したばかり。卒業論のテーマはコウモリの生態。今度は秋田のツキノワグマを研究対象にした。秋田市に3週間滞在し、大学、行政の専門家、市民らにインタビューを重ねた。秋高同窓会館も訪問。質問資料に「クマの行動をどう思うか」「クマを管理する戦略として射殺することは」といった項目もあった。スコットランド出身の教官との間で、「クマと人間の共存・すみ分けの道」を考えたいという意図がうかがえた。クマは危険で厄介な生き物と片付けてしまえばいいだけでなく、地球の大自然、生態系や生物多様性の観点から、クマを見つめる才媛の姿勢に深く考えさせられる。日常生活にクマの脅威がなくなつてほしいが、以前のようにクマと安全にすみ分けできれば望ましいだろう。阿仁のマタギはクマに感謝し、生活を営んできた。私たちも才媛の視点やマタギの精神から、クマとの向き合い方を考え直す余裕を持てたらどうか。